

住商鋼板加工

滋賀、出荷月6000トン目標

大分工場 一体化 車向け受注を強化

住商鋼板加工（本社大阪府此花区、金子一彦社長）は、滋賀工場の出荷量が全体で月間5500トン前後となり、加工も大幅に回復している。同工場の主力需要家の自動車が生産を増やしており、自動車とその部品メーカー向けの加工量が回復していることによるもの。今後、同工場では月間6000トン台の出荷量を目指す。

同社は住友商事系のコイルセンターで、本社、滋賀、福岡、大分の4工場を有している。滋賀工場は大型スリッター2基、大型レバラー1基、TWB2基を持ち、自動車向けを主体に加工している。

ただ、東日本大震災後のSCMの寸断により、自動車メーカーが大減産を強いられ、同工場の出荷量も震災後の2〜3カ月、低迷していた。具体的には4〜5月が月間4000トンを切る水準となっていた。しかし、6月からは自動車生産が回復し、同工場の出荷量は6月が月間4900トン、7〜8月が月間5000トン前後となった。

今後は大分工場と一体化して、自動車向けの受注・加工を強化していく。特に小口・多品種・短納期対応の強化と加工品質の向上を図り、自動車向けの数量拡大を図る。

2011年8月の建設機械出荷金額は、前年同月比19.3%増の1782億円となった。内需は30.9%増の523億円で5カ月連続の増加、外需15%増の1259億円で20カ月連続の増加。

建機出荷額19%

8月1782億円、内需

内需を機種別にみると、油圧ショベルが37.3%増の147億

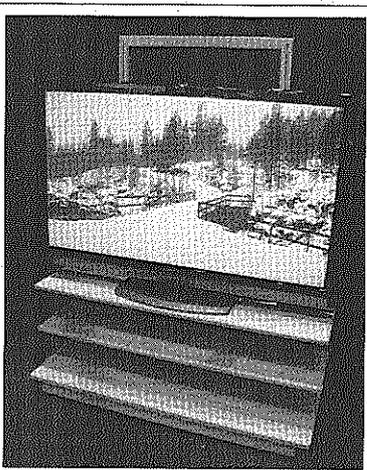
業況悪化

日本工作機械工業会が9月28日に発表した9月の工作機械短期受注観測調査によると、業況に関する判断（DI）は、会社全体の業況が足元の6.0から10月は4.5に、工作機械事業の業況は7.5

摂津金属、木と鉄を融合

システムラック製品化

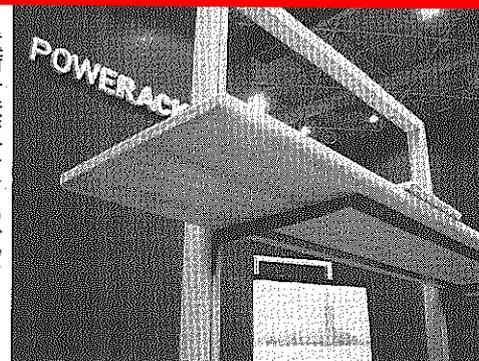
金属製品加工の摂津金属工業所（本社大阪府東大阪市、田中啓司社長）は、著名デザイナー喜多俊之氏のデザインによる、木と鉄を融合させた新しい機能性システムラック「POWERACK（パワラック）（仮称）」を製品化した。近日、正式販売に乗り出す方針。



薄型テレビ台にも活用可能

同製品は棚板を取り外して、自由に高さを変更できることのできる木製仕上げのシステムラック。表面は木製に見えるが、柱の内部や棚板の裏面にスチールを採用し、店舗用什器などで培った自社の得意とする鋼管部品加工技術を活用している。

喜多氏は大阪市出身の著名プロダクトデザイナーで、大阪芸大教授、大阪市特別顧問。シャープの液晶テレビ「AQUOS」のデザインを担当するなど、工業製品のデザインも多く手掛ける。摂津金属工業所では詳細仕様や価格、販売方法などを詰めた上で本格販売を開始する予定。



重荷を鉄で支えるのがポイント

喜多俊之氏デザイン

従来の木製家具では耐荷重や棚板のたわみに関係で対応できなかった。同製品は棚板を取り外して、自由に高さを変更できることのできる木製仕上げのシステムラック。表面は木製に見えるが、柱の内部や棚板の裏面にスチールを採用し、店舗用什器などで培った自社の得意とする鋼管部品加工技術を活用している。

厚板輸出 8月28万4000トン

17前月比増

2011年8月の厚板輸出量は、前月比17.1%増（前年同月比0.7%減）の28万3997トンとなった。内訳は、韓国が27.5%増（0.4%減）の13万2817トン、中国20.4%減（17.6%減）の6万9413トン、フィリピン12.4%増（2.7%減）の2万8498トン、インドネシア1万4424トンなどだった。

8月の輸入量は9.8%減（約2.8倍）の2万8908トンだった。

訳は、韓国16.4%増（約3.2倍）の2万5975トン、中国93.1%減（14.3%減）の540トン、台湾約2.1倍（31.9%増）の2232トンなどとなった。

ドラム缶出荷 踊り場

化学品在庫調整、輸出減で

ドラム缶の出荷は、化学品の在庫調整や輸出減を受けて踊り場に